

グループ会社の環境活動

グループ会社中二社の事業内容と環境活動の実績・目標をご紹介します。



東京エレクトロン デバイス株式会社

代表取締役社長
砂川 俊昭

ISO14001を取得し EMSの良い面を取り入れて 新しい業務形態に取り組みます

東京エレクトロン デバイス株式会社は、半導体製品、ソフトウェア、一般電子部品などの仕入れ販売を主な事業としております。そのため、工場のように直接大きな環境負荷をかけている訳ではありませんが、最近、お客様から取扱商品そのものに対する環境負荷削減の要望が多く寄せられており、この問題に対する取り組みを強化しております。

これは、特にデジタルコンシューマ向け製品を多く扱うようになったことと、お客様自身の環境意識が高まったことで、弊社で取り扱う半導体などの商品に対しても、省電力で、有害化学物質が含有されていないことなど、環境に配慮された商品であるか否かが重要視されているためです。

これらの外的要因を真摯に受け止め、この一年間で社内の環境意識も変化しました。オフィス・ワークでの環境配慮はもちろんですが、取扱商品の環境品質をいかにして高めていくかの取り組みを始めています。それに伴い、環境マネジメントシステムを構築し、2004年10月までにISO14001の認証を取得する予定です。部品メーカーの立場とは異なりますが、商社として可能な範囲で、様々な環境配慮を積極的に行っていく所存です。



東京エレクトロン ロジスティクス株式会社

代表取締役社長
中村 隆

施設管理と物流業務において、 環境負荷低減に役立つ 新たな取り組みを積極的に推進します

東京エレクトロン ロジスティクス株式会社は、東京エレクトロングループ国内外の物流はもちろん、製品の設置、施設管理など幅広い業務を取り扱っています。

環境負荷に対する取り組みとしては、まず、施設管理部門で、高濃度フッ酸廃液を産廃処理せず、社内処理する設備を整えました。また、工場の電気と水の消費を削減するため、空調設備を高消費電力のヒートポンプ方式から、外気温を利用した低消費電力のフリークーリング方式に切り替えるなどの取り組みを実施しています。

物流業務では、緩衝材の削減に力を入れています。様々な製品を取り扱うに当たり、梱包する箱などは大きく、同じサイズのもの管理しやすいとされています。逆に多くのサイズを用意すると管理コストは上がりますが、製品の大きさに見合った適正サイズの梱包箱を用意することで緩衝材の削減につながっています。また、共同配送や投函の利用、色分けなどをして、業務効率を上げるとともに、環境への負荷も低減しています。さらに、輸出梱包の将来を見据えて、新たな発想の物流を実験的に実施しております。木枠などでの輸出梱包をせず、トラックに乗せたままフェリーで現地に搬入するという方法です。このような新しい取り組みを今後も積極的に行っていきます。